平成27（2015）年度 事業活動報告・活動計算書

（平成27年４月１日から平成28年３月31日まで）　　認定特定非営利活動法人 全国盲導犬施設連合会

事業活動結果

公益財団法人 北海道盲導犬協会
公益財団法人 東日本盲導犬協会
公益財団法人 日本盲導犬協会
社会福祉法人 中部盲導犬協会
公益財団法人 九州盲導犬協会
社会福祉法人 兵庫盲導犬協会
社会福祉法人 日本ライトハウス
公益財団法人 関西盲導犬協会

「ともに生きる、ともに歩む」を共通の理念に、全国の盲導犬訓練法人施設の連合体として、視覚障害者が盲導犬を使用し自立と社会参加を図れるよう、広く盲導犬の普及啓発、相談、盲導犬貸与への助成を実施した。

1．普及啓発事業
　1）広報誌デュエット(24号)18万部・ポスター7千枚発行、補助犬同伴可ステッカーを作成配布した。
　2）視覚障害者向け盲導犬情報を2回（点字版、墨字版、CD版）を9月（15号）、３月（16号）に作成発行し、盲導犬ユーザー、点字図書館、各都道府県視覚障害者担当部局などに配布した。
　　また、1月に加盟施設の担当者が集まり盲導犬情報の「編集等意見交換会」を開催した。
　3）加盟施設ならびに盲導犬ユーザーに配布している小冊子「ぼくも一緒みんなも一緒」について、最新の情報に更新したものを２万部増刷した。
　4）啓発イベント（盲導犬ふれあい教室等）を全国で64回実施した。
　5）大手スーパーに設置している等身大盲導犬募金箱を８台修理入替した。
　6）「パトラッシュ基金」では、世界名作劇場40周年記念の劇場展でパトラッシュ等身大募金箱を設置し、募金活動を行った。
　7）寄附・募金箱設置協力企業の厚意に対し、良い機会を捉えて感謝状を贈呈した。
　8）事務局業務効率化のため、支援者情報･その他各種業務に関する情報を一元管理することを目的として、新しい情報管理システム導入の準備を行った。

2．相談室事業
　1）盲導犬貸与希望、入店拒否、使用者相談、事業者・市民相談など117件を受付対応し、育成訓練施設に照会、助言、調査回答等により各種問い合せへの解決を図った。
　2）1月、各施設の相談担当者が集まり、盲導犬の不適切使用に関する市民からの通報などに対応するためのマニュアルを作成した。

3．資格認定事業
　1）盲導犬訓練士4名、盲導犬歩行指導員2名の計6名を、以下のとおり学科講習、実技審査により知識・技能を確認し資格認定した。
　・学科習得確認テストを各施設で８月と１月に実施
　・実技審査会を12月～２月の期間に申込者所属施設を会場に実施
　・２月、新たな審査方法の導入に伴う新しい審査員による盲導犬歩行指導員実技試行審査を実施
　・盲導犬歩行指導員面接　2月に実施
　・盲導犬歩行指導員等資格認定委員会　４月、7月（拡大版）、10月、11月、3月の5回開催
　・理事会、社員総会に付議　3月
　2）来年度以降の資格認定事業について見直しを行い、新たな実技審査方法の導入に向けて「盲導犬歩行指導員等資格認定規則」について、資格認定委員会の承認ならびに3月14日開催の理事会、社員総会での付議を経て改定した。
　3）新たな実技審査方法の導入に伴い、実技審査員についても、各施設から推薦を受けた訓練責任者ならびにそれに準ずる立場の者を審査員に任命委嘱することとし、資格認定委員会の承認、理事会、社員総会の付議を経て、平成28年度の資格認定審査より新たな審査員として委嘱する。
　4）これまで実技審査員を委嘱してきた「上級盲導犬歩行指導員」については、役割使命を終えたので平成28年３月31日をもって廃止した。

4．研修事業
　これまで主に資格認定審査申込者対象に開催してきたスクーリングについて、平成27年度から「6．情報交換及びネットワーク構築事業」でおこなう研修会「盲導犬育成ジャパンセミナー」に組み込み実施した。

5．使用者団体との相互協力事業
　1）5月30～6月1日に伊勢志摩で開催した全日本盲導犬使用者の総会・交流会のサポートを各施設の協力を得て実施した。
　2）上記の総会にて新たに就任した全日本盲導犬使用者の会の会長・副会長が6月に来所。盲導犬事業の現状について話し合った。

6．情報交換及びネットワーク構築事業
　1）各施設責任者と盲導犬の育成訓練と普及、事業に係る諸課題についての協議（運営委員会）を4回開催した。
　2）新たな試みとして、連合会がこれまで実施してきた各種の研修会・意見交換会等を一つの研修会に統合し、セミナー形式による研修会「盲導犬育成ジャパンセミナー」を開催した。
　3）(社福)日本盲人社会福祉施設協議会 自立支援部会盲導犬委員会「平成26（2014）年度盲導犬訓練施設年次報告書」の製本及び発送業務を行った。
　※平成28年3月末日現在、全国の盲導犬実働数は966頭。国内の指定法人全11団体が平成27年度中に育成した盲導犬の頭数は140頭。内訳は、新しく盲導犬ユーザーのパートナーとなった盲導犬は53頭、2頭目以降の代替犬は87頭。
　4）ANAによる盲導犬割引輸送協力が開始から10年をむかえ、利用実績も500回を超えたため、羽田空港で感謝状を贈呈した。
　5）盲導犬が公共交通機関を利用する際の、犬の「口輪」について、補助犬を所管する厚生労働省を通じて国土交通省に問い合わせをおこなった。
　6）５月22日、身体障害者補助犬を推進する議員の会による【ほじょ犬の日】啓発シンポジウムに出席した。

7．財政基盤支援事業
　1）盲導犬の無償貸与促進を図るため、加盟施設が実施する盲導犬無償貸与にかかる費用の一部助成（１頭200万円）を行い、盲導犬23頭を連合会助成により視覚障害者に無償貸与することができた。
　2）盲導犬の無償貸与促進を図るため「特定資産積立金」の取り崩しによる加盟施設が実施する盲導犬無償貸与にかかる費用の一部補助（１頭200万円）を行い、盲導犬10頭を連合会補助により視覚障害者に無償貸与することができた。
　この結果、平成27年度は盲導犬33頭の助成・補助を行った。

8．調査研究事業
　1）盲導犬繁殖事業について
　　加盟各施設で取組んでいる良質な仔犬（盲導犬候補犬）確保に向けた繁殖方法について、平成27年度より盲導犬改良システムの構築をAGBNへ業務委託した。
　2）平成28年4月1日に施行する障害者差別解消法に関するセミナーへ出席した。

9．国際交流事業
　国際盲導犬連盟（IGDF）のセミナーは隔年開催のため、本年度は、来年度（平成28年度）の５月にクロアチア共和国で開催予定のセミナーへの各施設職員の参加に関して、連合会が可能なバックアップの内容について調整・準備を行った。

10．顕彰事業
　1）本年度退任した理事へ、表彰贈呈を行った。
　2）６名の上級盲導犬歩行指導員の資格認定事業への貢献に対して感謝状を贈呈した。

活動計算書

（単位：円）

1)収益の部

大科目	中科目	決算額
受取会費	正会員受取会費	800,000
	計	800,000
受取寄附金	個人寄附金	12,999,510
	団体・法人寄附金	6,998,174
	特別寄附金	18,727,566
	募金	78,193,003
	その他募金	87,121
	計	117,005,374
その他収益	受取利息	37,489
	ステッカー収入	34,060
	指定正味財産振替額	20,000,000
	計	20,071,549
経常収益計		137,876,923

2)費用の部

大科目	中科目	決算額
事業費	人件費	26,536,552
	普及啓発事業費	11,675,306
	相談室事業費	485,549
	資格認定事業費	1,823,081
	研修事業費	211,436
	使用者団体相互協力事業費	1,122,771
	情報交換・ネットワーク事業費	3,106,011
	財政基盤支援事業費	66,009,936
	調査研究事業費	3,053,316
	国際交流事業費	0
	顕彰事業費	46,620
	計	114,070,578
管理費	人件費	4,916,053
	その他管理費	6,743,969
	計	11,660,022
経常費用計		125,730,600
当期経常増減額		12,146,323